

元歌

園長 山中 文

子どもたちが好き好きに歌っている歌の様子は見ていてほほえましいものです。実は、楽しそうに歌う歌には、思わぬ背景を持つものがあります。

たとえば、「権兵衛さんの赤ちゃん」をご存じかと思います。♪ごんべさんのあかちゃんがかぜひいた〜♪と歌いますね。この歌のルーツをたどると、アメリカの奴隷解放運動指導者のジョン・ブラウンを称える歌に行きあたります。この歌詞は、解放運動中に捉えられ殺された彼の功績を称えるように、「ジョン・ブラウンの屍は朽ちても、彼の魂は進みゆく」と歌われます（さらにルーツはたどれそうですが、定かではありません）。日本では、「おたまじゃくしは蛙の子」という替え歌もあるくらい、子どもの遊び歌になっているのに、元歌はまったく違うものなのです。

♪線路は続くよ、どこまでも〜♪と歌う「線路は続くよどこまでも」（佐木俊訳詞、アメリカ民謡）も、楽しい旅の歌のようですが、元々は *I've Been Working on the Railroad* という原題があるように、線路工夫が線路の作業をしながら歌うような歌です。

子どものうたではありませんが、♪夕空はれて あきかぜふき つきかげ落ちて 鈴虫なく〜♪という歌詞からなる「故郷の空」（大和田建樹作詞、スコットランド民謡）という歌があります。秋の情景の中で故郷の家族を思い出すといった、趣のある歌のようですが、実は、元歌は、ライ麦畑で出会うカップルのことを歌った春歌です。ドリフターズがその昔、♪誰かさんと誰かさんが麦畑〜♪と歌っていたのを、少し年配の方ならご存じかもしれません。こちらの歌詞の方が元歌に近いものになっています。

元歌をたどってみると、歌詞がまったく違うことから、歌い方もそれにつれてかわることがわかります。ジョン・ブラウンの歌は、タツカのリズムをあまりはずませず、重々しく歌われます。*I've Been Working on the Railroad* も、「線路は続くよどこまでも」のように楽しそうにはずんで歌わないでしょう。逆に「故郷の空」の元歌は、ドリフターズがコミカルに歌っていたものの方がぴったりくるかもしれません。つまり、歌の表現は、歌詞の内容によって異なってくると言えるかもしれません。

元歌をたどればまったく違うものだったということは、日本が明治期以降に諸外国から多くの楽曲を取り入れたあたりからよく見られます。子どもたちが楽しそうに歌っている歌も、一度検索してみると、新しい発見があるかもしれませんね。